

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2376200164
法人名	有限会社大翔
事業所名	グループホーム日和
訪問調査日	平成 20 年 3 月 27 日
評価確定日	平成 20 年 7 月 2 日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月4日

【評価実施概要】

事業所番号	2376200164
法人名	有限会社大翔
事業所名	グループホーム日和
所在地	豊田市大坪町日向下23 (電話) 0565-68-3355
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7
訪問調査日	平成20年3月27日

【情報提供票より】 (平成20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年4月1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	9 人	常勤 4人, 非常勤 5人, 常勤換算 5.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成20年3月1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.4歳	最低	75歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	足助病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山と田畑の中にある一戸建ての家を改築したグループホームで、のどかで穏やかな雰囲気である。「支え合うことは、受止めること」、「心こそ大切なれ」を理念とし、入居者一人ひとりの能力を大切に、入居者の自由を認め、その人らしく暮らせるよう支援を行っている。職員は穏やかな表情でやさしく見守っている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「居室以外にも気の合った入居者同士や一人でホッとできるような場所の確保」については、ハード面で不可能なため、職員で検討し、リビングに職員のいない時間を設け、入居者のみの交流の場とし、和やかな雰囲気づくりがされるよう工夫がされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	月1回のミーティングで職員が意見を出し合い、全体評価として管理者が取りまとめている。また、外部評価を実施する意義について理解し、評価を活かして改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域包括支援センター、老人クラブ代表、家族(出席可能な者)が参加し、企画する計画となっているが、平成18年7月に開催以後、日程調整が出来ず実施されていない。会議の構成員例えば民生委員、保育士、消防署職員等幅広く参加を呼びかけ、2ヶ月に1回程度開催し、入居者のサービスの質の向上に活かされることが望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問は2~3日に1回の方、月1回の方とバラツキはある。家族の意見、苦情、不安を常時受け付けているが、殆ど意見は出されない。月1回のホーム便りのみでなく、運営推進会議を開催し、外部者へ表せる機会を設けホームの運営に反映されることが望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の一員として、自治会、老人会、地区の行事、保育園の行事等(盆踊りやひなまつり)に参加し、地元の人々と交流している。特に老人クラブの会員の方が週2~3回ホームへ立ち寄り、お茶を飲んだり、「カラスミ」作りをするなど気軽に出入りし交流を深めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「支え合うことは、受止めあうこと」、「心こそ大切なれ」を理念として、入居者と職員がお互いに信頼される関係を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティングで意見を出し合い、毎日の取り組みを振り返る機会としている。また、申し送り等を活用して、日々介護者としての自分を見直すよう努力をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の老人クラブの会員の方がホームに立ち寄って、入居者と一緒にお茶を飲み、声かけをしていただいている。保育園での行事にも（盆踊りや雛祭り）参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価で「入居者の居場所についての工夫」の指摘があり、リビングに職員のない時間を設け、入居者のみの交流の場とし、和やかな雰囲気づくりがされるよう工夫がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、平成18年7月に開催したが、以後、市役所の職員等に声かけし、開催を企画しようとしたが日程調整がつかず、実施されていない。メンバーが揃わないことで苦慮されている。	○	構成メンバー全員の出席は困難と思われるので、民生委員や保育園の保育士さんなど幅広く参加を促し、2ヶ月に1回開催されることが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域サービス向上会議など市役所の行事に参加し、サービスの向上に取り組んでいるが、運営推進会議などの連携が不十分である。	○	運営推進会議はもとより、サービスの質の向上に向けて市役所などの窓口へ行き来する機会を作り、連携をとることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の「お便り」でホームでの暮らしぶりや健康状態などについて家族に報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見、不満、苦情は常時受け付けているが、その数は殆どない。また、運営推進会議の開催が少ないため、外部者へ表せる機会が少ない。	○	運営推進会議の開催により、職員並びに外部者へ意見、不満、苦情を表せる機会を設け、家族会の結成も含めてホーム運営に反映されることが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員全員の声に耳を傾け、職員の離職を最小限に抑え、働きやすい職場環境づくりに努めている。職員が代わる場合はさりげなく入居者に伝え、ダメージを防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、管理者や職員を育成するために、外部での研修への参加や意見交換会へ参加するよう推奨している。法人内での研修の企画が少なく、また、パート職員がチームの一員として研修等への参加する機会が少ない。	○	法人内での研修会の企画やパート職員がチームの一員として研修及び会議等へ参加することが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会には参加されているが、相互訪問等の活動は不十分である。	○	グループホーム連絡会などを活用して、同業者との相互訪問する機会をつくり、サービスの質を向上させていく取り組みが望まれる。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が入所する前に、必ず見学を行い「1週間の仮入所期間」を設けるなど、サービスをいきなり開始することを避け、職員や他の入居者、ホームの雰囲気に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者の経験を活かした食事の準備の手伝いや、人生の先輩として学んだり、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思いを受け止め、さりげなく対応し、一人ひとり自由な過ごし方を支援している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のミーティングで入居者一人ひとりのケアの課題とあり方について意見交換を行うと共に、家族の意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、介護計画の見直しを行っている。見直しは「改善されたこと」、「変化していないこと」、「悪化したこと」の意見を出し合い、入居者、家族の意見も含めて、現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況、要望により、通院への付き添いや、買い物、理美容支援等、事業所の多機能性を活かした支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を大切にし、適切な医療が受けられるよう家族と相談しながら、支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化については、看護師等の応援態勢がないため、当ホームでの介護に不安があり、入所時に家族に説明をしている。重度化に向けた対応について全員で方針が共有されていない。	○	管理者は終末期ケア研修を受講済みであり、協力医療機関、家族、関係者と話し合い、終末期ケアに向けた方針を職員全員で共有される事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないようにしている。記録物等の個人情報の取り扱いは配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先するのではなく、入居者の日々の施設での活動について、本人の希望を重視し、自由に過ごしていただくよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
	22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が一緒に食事の準備を行い、一緒に食事をしている。一人ひとりの力を活用しながら、後片付けも入居者が率先して茶碗拭きなど行っている。	
	23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴は、毎日入浴できる。入居者の希望に応じ、入浴が楽しめるよう支援している。中には入浴を拒む入居者もあるが、強制ではなく、言葉がけを行い入浴していただくようしている。	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
	24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かして、洗濯物を干したり、たたんだり、草取りや野菜作りなど気晴らしの支援をしている。	
	25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や行事など、入居者一人ひとりの外出も厳しく制限せず、遠くから見守る態勢で支援している。	
(4)安心と安全を支える支援					
	26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が、鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は、玄関の施錠をしておらず、自由に出入りできる。夜間は防犯上のため施錠している。	

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震、水害等の災害時の避難訓練について、職員が入居者を避難誘導する訓練は不十分である。また地域住民の協力についての働きかけも不十分である。	○	地域住民や消防署等へ働きかけ、火災、地震、水害等の避難訓練を実施されることが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量等について一人ひとりの状態や習慣に応じた支援をしているが、栄養摂取カロリー等について管理栄養士の助言が不十分である。	○	水分などの摂取量については、職員が十分把握し支援しているが、栄養バランスについて、管理栄養士の指導助言を定期的に受けられることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1ヶ月ごとにリビングの壁面の模様替えを行い、季節の変化に応じたものになっている。不快な音や光はないように共用空間を作っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、入居者の身の回りの物は使い慣れた好みの物を置き、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。